

キャラクター名
御子柴 薫子(みこしば かおるこ)OVA

プレイヤー名

シンドローム	ソラリス オルクス		ワークス	UGNエージェントA	カヴァー	副生徒会長
オプション			年齢	17	性別	女
覚醒	償い	衝動	加虐		初期侵食率	33 %
出自	親の理解		経験	ライバル:ペアトリス・ハックマン	邂逅	主人:雲雀宏一

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	24
肉体	0	1	0			1	行動値	4
感覚	1	0	0			1	(非装備時)	4
精神	2	0	0			2	戦闘移動	9
社会	5	0	0			5	全力移動	18

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃			R C	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転:バイク			芸術:			知識:レネゲイド			情報:UGN	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:銀行(雲雀宏一)	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
マボロシ幻影(80↑)		0	12			対象3体 C値-1 D+6個 達成値+10
マボロシ幻影(100↑)		0	12			対象3体 C値-1 D+8個 達成値+12

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
Aランク:サポーター	
学園の腕章	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
生還者	P	N		
雲雀宏一	P 忠誠	N 心酔		
天上明	P 相棒	N 無関心		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 12 残り財産P:

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
狂戦士	3	5	Xジャー	視界	単体	自動	80↑	
効果:	C値-1 判定ダイス+Lv*2							
要の陣形	3	3	Xジャー	-	3体	-	-	
効果:	対象変更							
導きの華	5	4	Xジャー	視界	単体	自動	-	
効果:	次に行うメジャー達成値+Lv*2							
妖精の手	3	4	オート	視界	単体	自動	-	
効果:	ダイス目一つを10に変更							
アクセル	5	1	セットアップ	視界	単体	自動	-	
効果:	R中、行動値+Lv*2							
力の法則	3	5	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果:	ダメージ+ Lv+1D							
光り指す場所	1	2	Xジャー	視界	単体	自動	リミット	
効果:	《導きの華》使用時達成値+5							
麗しの容貌	★							
効果:								
地獄耳	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

オーヴァードアカデミア高等部生徒会副生徒会長。
非常に大事な事なので最初に宣言しておく。おっぱいが大きい。

▼生い立ち
両親がUGNエージェントであり、幼少期からオーヴァードについての教育を受ける。
また、未覚醒でありながら両親の任務に"記録係"として同行することもあった。(対ワーディングマスクを装備)
軽い訓練やテストも上々。近いうちに覚醒すると言われは3年。15歳の頃だった。
両親の厚い期待に沿えぬまま、覚醒を願い今日も記録を紡ぐだけの任務をこなしていた。その時。
両親が目の前でジャームに殺害された。
足がすくんで動けなかった。震える手で報告を急ぐ。ジャームがちらとこちらを見たが、興味を無くした様に去っていった。

初めて任務に出る時、両親にこう教えられた。
"記録者"とは、何があっても帰還せねばならない。仲間が死のうと、私達が死のうと。お前だけは生き残って報告をしなくてはならない。
逃げるのが、後の何百人、何千人を救うことになる。と。

その言葉を胸に必死に逃げた。帰還装置も既に破壊されており、使い物にならなかった為ひたすら走った。
追手も馬鹿ではない。2~3度死んだ気さえする。
足の感覚がなくなる頃、ようやく支那にたどり着いた。
治療を受ける中、不可解な事実が気が付く。腕の1本や2本折れていてもおかしくないと思っていたが、外傷がほぼ全て治っている。
まさかと思ひ検査を受けると、幸か不幸か。覚醒していた。